



# 九州大学演習林

Kyushu University Forest







Kasuya Station

## 福岡演習林

### 環境

九州大学箱崎キャンパスから北東約12kmの福岡県糟屋郡篠栗町および久山町に所在(東経130°31', 北緯33°38')し、総面積481haで、博多湾に注ぐ多々良川水系の新建川と金出川の源流部に位置しています。標高は30～553mで、約100haは標高100m以下の第三紀層の丘陵地ですが、残りは古生層の急峻な山岳地形を成しています。気候は、年平均気温16.2℃、温かさ指数は134.9、年降水量は1,599mmです。

自然植生はカシ類、シイ類、タブノキ、ヤマモモ等の暖温帯性常緑広葉樹(照葉樹)が多く、乾燥した尾根にはイヌシデ、コナラ、クリなどの落葉広葉樹が分布しています。人工林は森林の63%を占め、主にスギ・ヒノキが植栽されています。

庁舎近傍には、樹木約350種を植栽した面積約30haの資源植物園があります。また、敷地の西端にある蒲田池を取り囲む約17haの林地を、「篠栗九大の森」として地域に開放しています。福岡市早良区、博多湾西部に位置する海岸クロマツ林(生の松原)は、かつての早良地方演習林で、現在はその内の約33haが福岡演習林早良実習場となっています。



ヒノキ林

### 教育・研究

農学部地球森林科学コース2年生対象の「森林調査実習Ⅰ・Ⅱ」、同じく3年生対象の「森林学実習」・「砂防学実習」、全学低年次学生対象の「フィールド科学研究入門(水循環プログラム)」などの講義・実習が行われています。また一般市民を対象とした公開講座、小・中学校教員を対象とした公開講座、小・中学生や高校生を対象とした森林教室も実施されています。

森林における水・物質・エネルギー循環に関する研究、景観や生態系保全を考慮した造園・緑地の造成に関する研究、木材材質に関する研究、キノコ菌類に関する研究などが行われてるほか、樹齢150年を超えるスギ・ヒノキ人工林では、文化財修復の需要に応える長伐期試験が行われています。また、演習林内には44カ所の固定試験地が設定されており、長期間にわたる調査とデータ集積を必要とする研究が行われ、その一部は環境省モニタリング1000の森林準コアサイトに選定されています。



福岡演習林事務室

### 面積

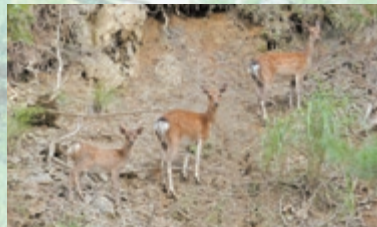
地種・林種別面積(ha)

2010年4月

区分	林 地				除地	計 (%)
	学術参考 保護林	見本林	保全試験林	経営試験林		
人工林	31	19	84	172	—	306 (63.6)
天然林	20	51	53	21	—	145 (30.1)
無立木地	—	—	—	—	30	30 (6.2)
計 (%)	51 (10.6)	70 (14.6)	137 (28.5)	193 (40.1)	30 (6.2)	481 (100.0)

※早良実習場33haを含まない





Shiba station

## 宮崎演習林

### 環境

九州脊梁山地の中央部、宮崎県東臼杵郡椎葉村に所在(東経131°08', 北緯32°22')し、総面積は2,916haで東側は中生代白亜紀～新生代古第三紀、四万十累層群の変成岩類、西側には貫入花崗岩類が分布しています。日向灘に注ぐ一ツ瀬川源流部に位置し、標高は650～1607mで、気候は、年平均気温12.9℃、暖かさ指数101.6、年降水量3,356mmです。

自然植生はブナ、ミズナラ、ヒメシャラなどの落葉広葉樹と、モミ、ツガ、アカマツなどの常緑針葉樹が混交した冷温帯性林が主であり、林床にスズタケが密生しています。しかし近年は野性シカの増加に伴う採食等の影響で裸地化が進んでいます。人工林は主にスギ、ヒノキ林で構成され全面積の18%を占めています。



モミ、ツガ天然林

### 教育・研究

農学部地球森林科学コース3年生対象の「山地森林管理学」「森林計画学実習」をはじめ、全学低年次生対象の「フィールド科学研究入門(山岳森林生態プログラム)」などの講義・実習が行われています。また、一般市民を対象とした公開講座や森林教室も実施されています。

森林生態に関する研究、山地保全・防災、高冷山岳地におけるスギ・ヒノキ人工林の育成技術に関する研究、野生動物と植生の相互作用に関する研究などが行われています。また、演習林内には64カ所の固定試験地が設定されており、長期間にわたる調査とデータ集積を必要とする研究が行われ、その一部は環境省モニタリング1000の森林準コアサイトに選定されています。



宮崎演習林事務室

### 面積

地種・林種別面積(ha)

2010年4月

区分	林 地				除地	計 (%)
	学術参考 保護林	見本林	保全試験林	経営試験林		
人工林	—	6	30	490	—	526 (18.0)
天然林	205	17	1,389	735	—	2,346 (80.5)
無立木地	—	—	—	—	44	44 (1.5)
計 (%)	205 (7.0)	23 (0.8)	1,419 (48.7)	1,225 (42.0)	44 (1.5)	2,916 (100.0)

※保全試験区の人工林に矢立樹木園(1.25ha)を含む

※除地の無立木地に事務所敷地(0.59ha)と人吉試験地(0.18ha)を含む





Ashoro Station

## 北海道演習林

### 環境

北海道東部、十勝支庁管内足寄町に所在(東経143°33'、北緯 43°14')し、総面積3,713haと愛冠地区の実験苗畑約1haとで構成されています。標高100～450mの丘陵性の台地で、地質は大部分が新第三紀の凝灰岩層と砂岩、頁岩のほぼ水平な互層とからなっています。気候は、年平均気温6.0℃、暖かさの指数60.0、年降水量749mm、最深積雪量42cmで、気温の日較差や年較差が大きく、降水量が少ないという内陸的な特性を示します。

自然植生は、開拓前の十勝の自然植生を反映したミズナラ、イタヤカエデなどの樹種で構成される落葉広葉樹林で、本州の冷温帯林を代表するブナは分布せず、また、北海道の山地に広く分布するトドマツ、エゾマツなどの常緑針葉樹も出現しません。人工林は森林の33%を占め、ほとんどはカラマツ林で、トドマツやアカエゾマツの他、広葉樹、外国産樹種も試験的に植栽されています。



自然林保全区のミズナラ

### 教育・研究

農学部地球森林科学コース3年生対象の「北方圏森林管理学」、全学低年次学生対象の「フィールド科学研究入門(北海道プログラム)」、全国の学生を対象とした「北海道演習林インターンシップ」等の講義・実習が行われています。また、一般市民を対象とした公開講座や多様な森林教育プログラムも実施されています。

北方林における森林作業法に関する研究、冷温帯落葉樹林に関する研究、森林の水質浄化機能に関する研究などが行われています。また、演習林内には、44カ所の固定試験地が設定されており、長期間にわたる調査とデータ集積を必要とする研究が行われ、その一部は道東を代表する森林として環境省モニタリング1000の森林コアサイトに選定され、観測データを提供・公開しています。



北海道演習林事務室

### 面積

地種・林種別面積(ha)

2010年4月

区分	林 地				除地	計 (%)
	学術参考 保護林	見本林	保全試験林	経営試験林		
人工林	—	193	—	1,045	—	1,238 (33.3)
天然林	78	—	850	1,361	—	2,289 (61.7)*
無立木地	—	—	—	184	2	186 (5.0)
計 (%)	78 (2.1)	193 (5.2)	850 (22.9)	2,590 (69.7)*	2 (0.1)	3,713 (100.0)

※ \*印は端数調整

## 沿革

1912(大正元)年に、樺太演習林および朝鮮演習林が設置されたのが九州大学演習林の始まりです。翌1913年には台湾演習林も設置されました。1919年に農学部、1921年に農学部林学科が設置され、その翌年の1922(大正11)年に、演習林は農学部附属演習林となりました。同年、早良演習林と粕屋演習林が設置されました。その後、1926(昭和元)年には北朝鮮演習林が、1939(昭和14)年には宮崎演習林が設置されました。

1945(昭和20)年の敗戦により海外の4演習林を失いましたが、1949(昭和24)年に樺太演習林の代替として北海道演習林が設置されました。1949年の国立学校設置法により新制九州大学となって以降、農学部附属演習林は、箱崎地区に置かれた演習林本部と、早良、粕屋、宮崎、北海道の4つの地方演習林とで構成されてきました。

1993(平成5)年、演習林本部が粕屋地方演習林の敷地内に移転したのを機に、粕屋地方演習林と早良地方演習林を統合して福岡演習林とすると共に、地方演習林の名称を廃して、それぞれ、宮崎演習林、北海道演習林と改称しました。

2004(平成16)年の国立大学の法人化に伴って演習林の林地は民有林となりました。

## 教育・研究

福岡演習林(都市近郊林 481ha)、宮崎演習林(奥地山岳林 2,916ha)、北海道演習林(北方丘陵林 3,713ha)の3つの演習林で構成される九州大学演習林は、暖温帯から亜寒帯に至る日本列島の主要な植生帯をカバーしています。多様な森林環境を持つ演習林は、生物多様性の維持に貢献するとともに、これを適切に管理することにより、森林をフィールドとした様々な教育研究を行う大型野外実験施設としての機能を果たしています。

農学部地球森林科学コースおよび大学院生物資源環境学府の講義・実習・演習のほか、全学教育の一部が演習林を利用して行われています。また、市民の生涯学習、小中学校教員や高校教師を対象とした講座、小中高校生の体験学習、大学生を対象としたインターンシップなど、地域と連携した様々な教育活動が行われています。

演習林内に数多く設定された試験地や、地域の環境条件を反映した特色ある林分は、農学部や生物資源環境学府だけでなく、本学の他部局、他大学、諸研究所など、様々な機関の研究の場として活用されています。また、研究資材やデータの提供をとおして、幅広い分野の研究を支援しています。

## 管理・運営

森林の管理は、3つの演習林それぞれについて10年を計画期間として策定される「森林管理計画」に基づいて行われています。森林管理計画の内容や実行状況は演習林管理運営委員会、および演習林審議会で審議されます。

演習林を利用した教育研究を推進し支援する主体となる演習林研究部は、演習林に勤務する大学院農学研究部森林環境科学講座教員と演習林技術職員とで構成されており、その活動を農学部事務部が支援しています。

## 組織

## 林長

研究部(研究部長)

技術室(技術室長)

調査室(調査室長)

福岡演習林(福岡演習林長)

北海道演習林(北海道演習林長)

宮崎演習林(宮崎演習林長)

農学部事務部(事務長)

農場・演習林事務室(事務室長)

農場・演習林総務係(総務係長)

北海道演習林係(北海道演習林係長)

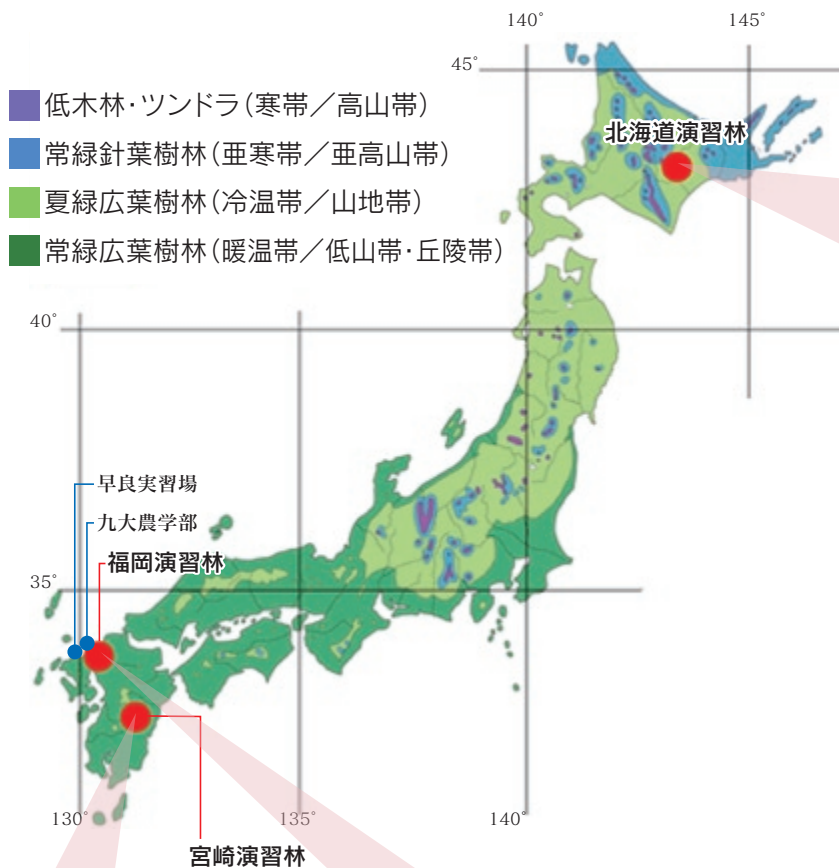
宮崎演習林係(宮崎演習林係長)

職員数(現員)

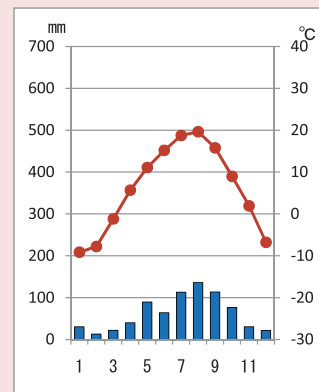
2010年4月

区 分		附属 演習林	区 分		附属 演習林
農学研究院	教授	2	事務系職員 (農学部事務部)	事務長	1
	准教授	5		事務室長	1
	助教	5		係長	3
技術系職員	技術専門員	1		主任	2
	技術専門職員	7		係員	3
	技術職員	4		有期契約	1
	パートタイム	12		パートタイム	10



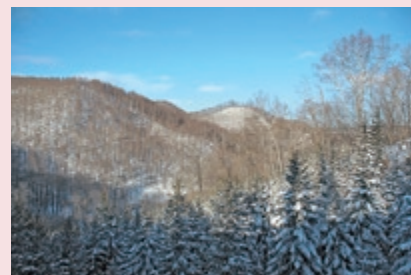


北海道演習林



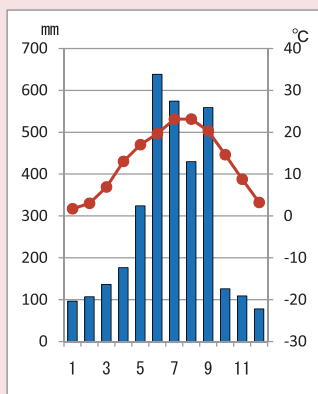
年平均気温 6.0 °C  
年間降水量 749 mm

暖かさの指数 60 °C・月  
寒さの指数 -48 °C・月



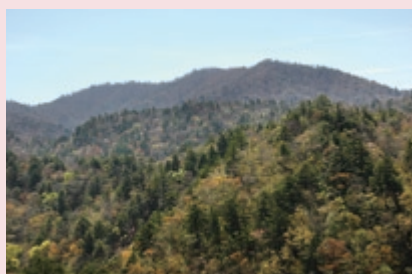
北海道演習林

宮崎演習林



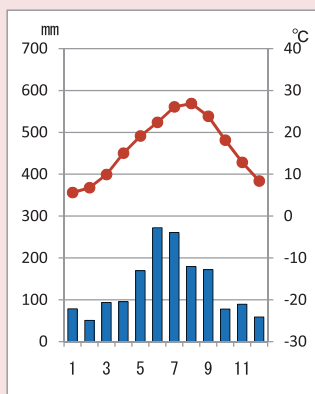
年平均気温 12.9 °C  
年間降水量 3356 mm

暖かさの指数 102 °C・月  
寒さの指数 -7 °C・月



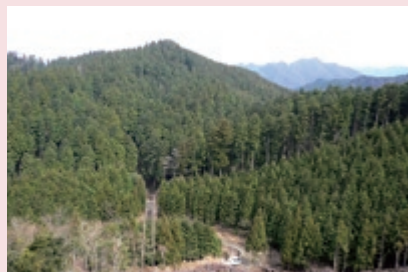
宮崎演習林

福岡演習林



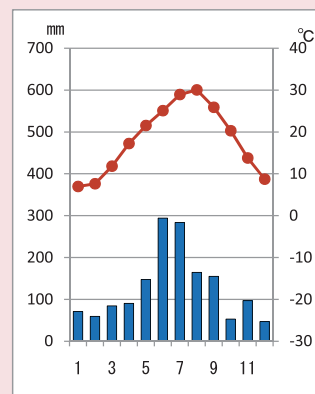
年平均気温 16.2 °C  
年間降水量 1599 mm

暖かさの指数 135 °C・月  
寒さの指数 —



福岡演習林

早良実習場



年平均気温 18.2 °C  
年間降水量 1547 mm

暖かさの指数 158 °C・月  
寒さの指数 —



早良実習場

## 九州大学農学部附属演習林

### 研究部

#### 【調査室】

Tel. 092-948-3104 Fax. 092-948-3119  
E-mail: chosa@forest.kyushu-u.ac.jp

#### 【技術室】

Tel. 092-948-3103 Fax. 092-948-3127  
E-mail: gyomu@forest.kyushu-u.ac.jp

### 事務部

#### 【事務室(農場・演習林事務室)】

Tel. 092-948-3101 Fax. 092-948-3127  
E-mail: nonsomu@jimu.kyushu-u.ac.jp

#### 【演習林本部ホームページ】

<http://www.forest.kyushu-u.ac.jp>

## 福岡演習林

〒811-2415 福岡県糟屋郡篠栗町津波黒394  
Tel. 092-948-3101 Fax. 092-948-3127

## 宮崎演習林

〒883-0402 宮崎県東臼杵郡椎葉村大河内949  
Tel. 0983-38-1116 Fax. 0983-38-1004

## 北海道演習林

〒089-3705 北海道足寄郡足寄町北5条1の85  
Tel. 0156-25-2608 Fax. 0156-25-3050